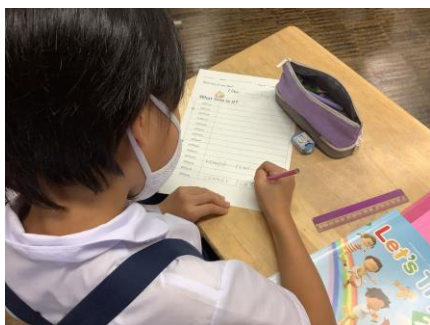


1. (2) 第4学年における実践

自分自身について英語で発信する力を育む授業 ーやり取りを通して、自分の好きな時間を伝える(第4学年)ー



1日の中でみんなが一番好きな時間はいつだろう？子供たちは、普段の生活のことを平易な英語で伝え合いながら、自己を振り返り、友達にはまだ教えていない好きな時間をどう伝えるかを、やり取りをしながら探っていく。他者との英語でのやり取りを通して、仲間の好きな時間を聞き、自分の好きな時間について自信をもって伝え、英語でやり取りする楽しさを味わう授業。

1. 学びの構想

週1時間の外国語活動の授業。3年生では、英語を用いて級友に自分自身のことを伝え、相手の言ったことに対して“Me, too.”や“I see.”、“Really?”といった相槌を打ったり、“Do you ~?”で質問したりすることを、各単元で少しずつ行い、できるだけ子供たちが英語を使う場面を設定してきた。

本校英語科の考える本質的な学び「英語を用いて『他』とつながり、世界観を広げる」に近づくために、4年生において、自分自身のことを平易な英語で表現し、相手のことをもっと知るために、平易な英語で質問することを目指している。少しずつではあるが、子供たちは級友の発表やALTの話を聞いて、質問している。そして、今年度は特に英語を用いて子供たちの様々な違いに気付いたり、それを楽しんだりすることを授業の柱としている。毎時間、授業の最初に行うALTとJTEとのSmall Talkをモデルとし、その授業で学習する表現や既習の表現を織り交ぜながら、平易な英語を使って、教師と児童によるインタラクションを行う。インプットとアウトプットを繰り返しながら、児童同士のインタラクションにつなげることで、繰り返し英語の音声やリズムに十分に慣れ親しめるようにしている。

本実践は、教科書Let's Try 2 単元Unit 4 “What time is it?”をもとにデザインしている。時刻や日課の言い方や尋ね方に慣れ親しみながら、自分の好きな時間について、尋ね合うことが主な活動である。そこで、本実践では、1日の生活を題材に、級友がどんな1日を過ごしているのか、また1日の中で一番好きな時間(本実践では、My Golden Timeとする)はいつか、などを伝え合うことを単元のゴールと設定した。日課を表すために、eatやgo to bedなどの一般動詞を使うことは、この段階ではやや難しいと考え、教科書で使われているBreakfast TimeやSnack Timeなどの名詞形を用いて伝えることにした。子供たちには、この単元で学習する“What time is it?”で質問するだけでなく、好きな時間の理由を“Why?”でさらに質問し、子供同士でのやり取りができるようにしたいと考えた。毎時間の授業で行うSmall Talkを通してモデルを示し、積極的に活用する場面につなげていきたい。

2. 学びのストーリー

(1) 英語でどう言えばいいの? (第1時)

前単元のUnit 3 “I like Mondays.”で、子供たちは好きな曜日とその理由を生活班のメンバーと全体の前で発表した。発表前には、好きな曜日

でどんなことをするのかを画用紙に絵で表した。全体の前で発表するときは、描いた絵を電子黒板に映し出しながら発表した。本時も授業冒頭の Small Talk のテーマとして、前単元の復習も兼ねて好きな曜日を選び、子供たちは、ALT や JTE と何度かやり取りした後、ペア同士でやり取りをした。(写真1)



写真1 ALT とやり取りをする児童



写真2 Unit3で作成したカード

本実践に入る前、子供たちは好きな曜日ごとに掲示した画用紙(写真2)を、登校後や休み時間に興味深く見ていた。子供同士でやり取りをした後、何人かの画用紙に時計の絵が描かれていることに数名の子供が気づき、発言した。すると、他の子供たちが時刻の言い方に関心を示した。前単元で知った友達の好きな曜日とその理由が、本単元の学びの発意に繋がった瞬間であった。その後子供たちは、“time”や“clock”, “watch”を使うだろうと予想した。中には、英語が思い浮かばず、教室の時計を指さす子供もいた。そして、ALTに“How do you say?”と質問して“what time is it?”という時刻を尋ねる表現を学んだ。

その後子供たちは、時刻の伝え方にも注目した。以前、Unit 2 “Let’s play cards.”において天気 of 伝え方を学習した際に、気温の伝え方(摂氏と華氏)に日本と海外で違いがあることを思い出し、ALTに質問した。日本語では、午前11時50分と言うのに対し、英語では11:50 a.m. と言うことをALTから学び、日本語との違いに驚いた。既習事項を使いながら、質問する子供たちにJTEがファシリテーターとして間に入り、子供たちの知りたいことを引き出した。その中で日本と時差があることにも気づき、タブレットを使って日本と世界各国との時差を確認した。ALTの出身国のフィリピンと日本の時差、アメリカやロシアのような広い国では、一つの国の中に時差があることに、目を輝かせながら驚いていた。

(2) どんな時間だろう(第2時)

授業最初の Small Talk の中に、前時に学習した“what time is it?”を入れることで、子供たちは教室の時計を見ながら、英語で時刻を表現しようとした。さらに、教科書のチャンツや Let’s Listen を通して、徐々に時刻の伝え方に慣れてきた。

本時では、Small Talk の後に再度 ALT と JTE のやり取りを見て、一番好きな時間を表すモデルを示した。

ALT: What day do you like, sensei?

JTE: I like Saturdays.

ALT: Why?

JTE: I read comics.

ALT: What time do you read comics?

JTE: At 9:00 a.m., so ... (〇〇 time と板書)

Name the time, please.

子供たちは、ALT と JTE の好きな曜日とその理由を、やり取りを通して既に分かっていた。そこで、それぞれの好きな時間を“〇〇time”と名

付けることに取り組んだ。JTE の好きな時間を、子供たちは“Manga time”や“Comic time”と名付けた。

その後子供たちは、教科書に登場する人物の1日の生活に関する映像を見て、ALT と日課を表す表現を確認した。ワークシート（写真3）に、自分の好きな曜日の日課を“○○time”と名付けて記入した。自分の一日を振り返りながら進めていく子供たちが多い中、考え込む子供もいた。机間支援中、好きな時刻を英語で名付けることが難しいと呟く信の姿が目にとまった。信は英語を苦手としている。彼の困り感を解消しようと、彼の疑問を全体に投げかけようとしたが、時間が来てしまった。ワークシートを回収後、信のほかに数名の子供が同様の困り感をもっていたことが判明した。そこで時間配分を反省するとともに、次時でこの困り感を全体で共有し、解決することにした。

What day do you like?	
I like _____	
What time is it?	
8:00 a.m.	
9:00 a.m.	
10:00 a.m.	
11:00 a.m.	
12:00 p.m.	
1:00 p.m.	
2:00 p.m.	
3:00 p.m.	
4:00 p.m.	
5:00 p.m.	
6:00 p.m.	
7:00 p.m.	
8:00 p.m.	
9:00 p.m.	

写真3 第2時で使用したワークシート

（3）友達をみんなで助けよう（第3時）

第2時の続きとして、ワークシートの作成から再開した。机間巡視をしながら、改めて信と康太のワークシートに注目した。前回の授業で難しさを呟いていた信は、今回は My Golden Time を日本語で書いており、英語でどう表現すればいいの

か、この日も悩んでいた。また、康太も自転車と書いてそこから止まっていた。そして、JTE から二人の困り感を、みんなで共有することを提案した。最初、信の困り感を取り上げようとしたが、恥ずかしがってしまった。そこで、康太の了解を得て、彼の困り感をクラスで共有した。

JTE: 康太さんの好きな時間に自転車と書いてあったけど、どう名付けるといいかな。

光: cycling time がいいと思います。

春子: 自転車は英語で bicycle って言うから bicycle time はどうかな。

亮: どこで自転車乗るの？

JTE: You can say “Where?”

亮: Where?

康太: 家の周り

JTE: Around your house.

将太: House cycling はどうかな？

この後も、文法のミスにこだわらず、子供たちはやり取りを通してどんどんアイデアを出していった。JTE は、アイデアを英語ではなく、あえてカタカナで表記した。英語が苦手な信の困り感を少しでも軽減するためである。康太は自分の思いと合う表現を選んだ。困り感が解消されて、康太は安心した表情を浮かべた。

続いて信。信のワークシートには、運動と書いてあった。そこから子供たち同士でやり取りが始まった。

JTE: 信さんは運動と書いていたね。

千佳: テニスではないんだよね。どんな運動するの？

信: ストレッチとか筋トレとかかな。

将太: どれくらいの時間やっているの？

JTE: You can say, “How long?”

将太: How long?

信: 1,2 時間かな。

信もクラスのみんなとのやり取りを通して、たくさんアイデアをもらった。最終的に自分の思いと合う表現を決め、ワークシートに「ストレッチトレーニング」と書き直した。（写真4、写真5）信は非常にすっきりとした表情であった。

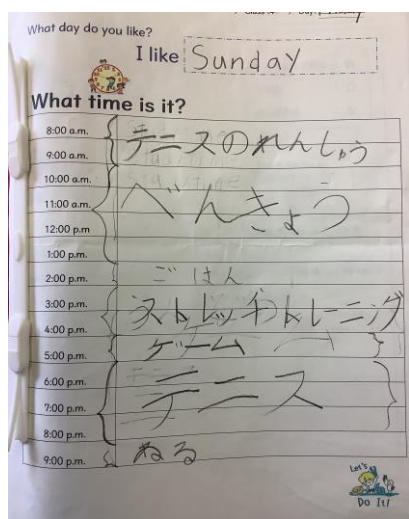


写真4 信のワークシート



写真5 自分の思いに合う表現を選ぶ様子

ALT: What do you do with your father?

JTE: お父さんとどんなことするの？

美佐: Game.

ALT: Oh, you play video game.

彰: What game?

美佐: Mario cart.

JTE: Anything else? ほかにには？

美佐: YouTube.

杏: What channel?

美佐: いろいろ

将太: じゃ、フアーザータイムは？

美佐: う〜ん…

ALT も入ることで、先ほどよりも英語を使っ
てのやり取りになった。子供たちも、知っている
英語表現を使いながら、より活発にやり取りをし
ていった。この時は、3年生で学習した“**What**
+ 名詞”を多く使っていた。やり取りを通して、
美佐も悩みながら、最後には自分が納得のいくア
イデアを決めることができた。気が付くと、いつ
の間にか授業終了の時刻になっていた。（写真
6）

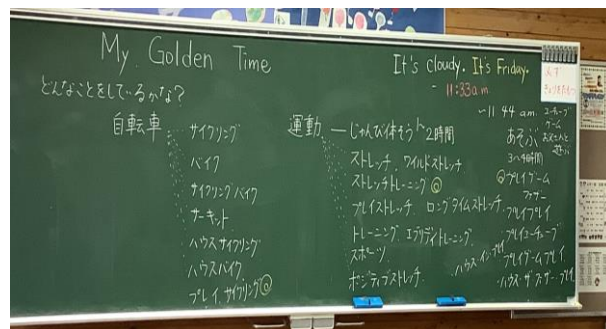


写真6 第3時の板書

(4) みんなのゴールデンタイムを比べよう

(第4・5時)

いよいよ発表に向けての準備をすることになった。まず、いつも通り **Small Talk** の中で発表のモデルを示し、活動のゴールを再度クラス全体で確認した。

ALT: What day do you like?

JTE: I like Saturdays.

ALT: Why?

JTE: I read comics.

ALT: What time?

JTE: At 9:00 a.m. It is my comics time.

子供たちは、前回のワークシートを使って、**My Golden Time** を発表する準備にとりかかった。すべて英語で書くことにこだわらず、**My Golden Time** がいつなのか、何をするのかを相手にきちんと伝えることに重点を置くことにした。子供たちは、各自工夫しながら絵を描いてカードを作成した。（写真7）どうすれば、相手に **My Golden Time** を分かってもらうことができるかを考えながら、カード作りに取り組んでいた。カードを仕上げた後、英語で自分の好きな曜日やその日の **My Golden Time** を発表する練習を繰り返した。JTE は、近くの子に自分の発表を聞いてもらう意欲的な姿が見られると、その姿を紹介した。すると、あちこちで発表の練習を始めた。



写真7 カードを作成する様子

夏休みが明け、まず、4年生で学習したこととこの単元での学習内容の復習を、ALT と JTE との **Small Talk** をモデルとしながら行った。子供たちは、モデルを参考に自分の話すことを声に出して確認した。久しぶりの外国語活動の時間とい

うこともあって、英語の発音に自信がなく、ALT や JTE、教育実習生に質問する子供もいた。

十分なインプットの後、まずは、生活班内で **My Golden Time** の発表を行った。あらかじめやり取りのモデルを板書に示したが、多くの子供たちは、黒板を注視しすぎず、聞いてくれる仲間とアイコンタクトをとりながら発表していた。各班で自然と拍手が起こったり、「へえ」や「すごい」といった反応があったり、発表を通して級友の新たな一面を見つけていた。困り感が解消された信も、照れくさそうに班のメンバーに向けて発表していた。

その後、全体に向けて発表する場を設けた。聞いている子供たちが、“What day do you like?” や “What time?” と質問をし、発表者が答える形式で行った。その際に、電子黒板にカードを映し出すことで、発表者の話す内容を理解することに役立ったようだ。最初英語を聞いても十分に理解できなかった子供が、電子黒板に映し出されたカードを見て、「そういうことか」と納得して理解していた。ここでは、康太が自ら手を挙げてみんなの前で堂々と発表し、拍手が返ってきた。

授業の最後には、**My Golden Time** を時刻ごとに整理した。子供たちは、好きなことが同じでも、時刻が異なっている仲間がいることに驚いていた。また、午前と午後を比べると、午後に **My Golden Time** が多くあることに気付いた子供もいた。そして、子供たちの **My Golden Time** を教室に掲示し、学びの足跡として、いつでも見ることができるようにした。早速子供たちは掲示を見て、級友の **My Golden Time** を確認していた。

（写真8）



写真8 Unit4で作成したカード

3. 省察

(1) やり取りの活性化

本実践では、My Golden Time を考える際に、教師がファシリテートする形で、子供たち同士のやり取りを仕組んだ。語彙も表現も限られており、どうしても日本語が入ってしまうやり取りが多くなる。英語に慣れ親しむこの段階では、伝えたいという気持ちを大切にするために、子供たちの日本語でのやり取りも大事にし、ALT や JTE が英語を使いながらやり取りの幅を広げていくことが必要だと考える。本実践においても、困り感をもっていた信が、みんなでやり取りをしながら、自分の考えを決めることができた。さらに康太にいたっては、やり取りを通して考えたことを、自分の表現に取り入れ、自信をもってクラス全体で発表した。単元ごとの表現の習得にだけ焦点を当てず、既習表現を総動員させながら、各単元で考える課題や表現を習得させる授業づくりが望ましいと考える。

また、子供たちにとって、聞きたくなる、知りたくなるやり取りを行うためには、違いを見つけることができるような発問や場面設定が不可欠である。普段仲よくしている友達のことをもっと知るためには、どんなことを聞くとよいかを考えることができれば、子供たちは、主体的に自己表現をし、違いを見つけていくと考える。これから、子供たちが英語でのコミュニケーションを楽しむことができるように、子供たちの興味関心や子供たちを取り巻く環境、流行に注目しながら、題材集めを続けていく。

今回は My Golden Time を発表する時に、教師側から与えた定型のダイアログにあてはめて、自分自身のことを表現してきた。5年生に向けて、少しずつ即興でのコミュニケーションを意識したやり取りに挑戦したい。子供たちが相手の言ったことに対して、自然と相槌を打つだけでなく、話を続けるために、話した内容に関連のある質問をすることができるようにしたい。やり取りのター

ンが増えることで、本校の本質的な学び「英語を用いて『他』とつながり、世界観を広げる」に近づくのではないかと考える。

(2) 活動の「見える化」

前単元の Unit 3 から、発表で使ったカードを掲示している。本実践は、この掲示したカードをきっかけに授業を実践した。本実践後も、My Golden Time を時刻ごとに掲示し、子供たちの好きな時間を自分のものと比較したり、新しい表現を学んだりできるようにした。学びの過程を「見える化」することで、新しい単元に入る際にも既習事項を踏まえて、新たな発意を生むだけでなく、新たな表現との出会いにもつなげることができる。今後もワークシートだけでなく、掲示によるポートフォリオを進めていく。このポートフォリオから、新出表現との出会いや、違いを発見することに繋がる。学びのストーリーを子供と共に省察していく上で、表現したものを「見える化」することは、非常に効果があると実感した。この実践後、次の単元のアルファベットの学習では、掲示したカードからアルファベットを見つけてきた子供もいた。さらに、本実践での学びから、Unit 8 “This is my favorite place.”の学習にも関連付けることができると考える。

また、授業でよく使う表現や、子供たちに使ってほしい表現を掲示すると、英語でのやり取りが活性化することが期待される。週1時間の外国語活動の中だけでは、表現の定着に時間を要する。少しでも子供たちの身近に英語表現にふれる場を設定することで、普段の授業でも、必要な時に振り返ることができ、子供たちも自信をもって話することができる。先述した即興でのやり取りが少しでもできることで、新たな学びの価値が生まれる。やり取りを通して相手と自分の違いを見つけていくことで、学びの価値も繰り上がると考える。

子供たちが英語に慣れ親しみながら、自分自身のことを表現することを楽しみ、友達との違いや自分の経験との違いも楽しむことができる授業をこれからも実践していきたい。

(布目 康裕)